

令和2年度 法奥小学校6年生「森林・林業・木材産業体験学習」

十和田市立法奥小学校6年生19名は、10月2日、5日、23日の3日間でみどり学習の一環として森林のはたらき、森林が人間の生活に欠かせないことを理解するため「森林・林業・木材産業体験学習」を実施しました。

初日は、当署職員が小学校に出向き、座学形式でパワーポイント等を使用しながら、森林の果たす役割、木を植えてから木製品になるまでの過程、日本・世界の森林の状況や環境問題等を学習しました。

2日目の午前は、(有)下久保林業さんの現場に行き、立木が伐倒され丸太となり搬出されるまでの工程を見学しました。ハーベスタの仕組みを丁寧に説明していただき、ハーベスタによる伐倒を行いました。本年はコロナ禍により中止となった日本伐木チャンピオンシップ出場予定の職員により、本番さながら標柱をめがけて伐倒する実演を行っていただき、伐倒者の緊張感が伝わるとともに倒れた瞬間は大歓声につつまれました。また、

午後は、上北森林組合木材加工センターへ移動し、山で生産された丸太が板や柱等の製品となる過程を見学しました。また、その過程において発生する端材等は木材乾燥用ボイラーの燃料に利用され、丸太が余すことなく利用されていることを確認しました。

3日目は、(有)岩木建設の作業場兼モデル住宅に行き、製品となった板や柱等が人の生活に関わることについて学びました。はじめに、建築作業(大工)、木製品に親しみを持っていただきたく、カンナ掛けの体験と絞り丸太の端材でペン立てを作成しました。その後、様々な樹種が適材適所に使われているモデル住宅を見学しました。

この3日間の学習で、森林のはたらき、木材は再生可能な資源であり人間の生活に欠かせないことの理解が深まってくれたら嬉しく思います。

今回の学習において、ご協力をいただいた林業事業体及び各企業に感謝申し上げます。



《座学…ハイ質問です!》



《枝はこれで払う…ハーベスタの説明》



《緊張しながら真剣に製材工程を見学》



《上手くカンナ掛けできてます》